



気象台のお仕事

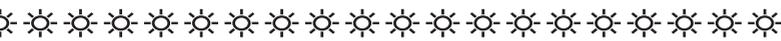
## 季節予報って何？

大阪管区気象台 気象防災部  
地球環境・海洋課 部田 安富

気象台では、今日・明日の「天気予報」や1週間先までの「週間天気予報」を発表していますが、その他にも、1か月先までの「1か月予報」や3か月先までの「3か月予報」、夏(6~8月)を対象とした「暖候期予報」、冬(12~2月)を対象とした「寒候期予報」もあります。このような長い期間の予報を「季節予報」と言います。

季節予報では、向こう1か月間や3か月間の天候を予報の対象とします。ただし、季節予報は、1か月後までや3か月後までの毎日の天気を予報するものではありません。例えば、向こう1か月間の予報をする1か月予報では、来月のある日の天気を「晴れ」、「雨」といったように断定して予報するのではなく、「向こう1か月間は曇りや雨の日が多い。」とか、「3か月を平均するといつもの夏より気温が高い。」というように、1日1日の天気や気温の変化ではなく、期間の大まかな天候が1か月予報の対象となります。普段の生活はもちろん、農業や観光、アパレル業界、スキー場のような季節に関係する仕事などに使われています。





季節予報では、平年の状況と比べてどのような天候が見込まれるか、という点に注目するのも特徴です。つまり、「今年の夏はいつもの夏よりも暑い。」といったような「いつもの夏(平年)」という基準からどれくらいずれているか、ということを予報しています。

3か月予報(平成26年7月25日発表)の解説

## 向こう3か月の天候の見通し 近畿地方 8月～10月

大阪管区気象台

### 予報のポイント

- 8月は、暖かい空気に覆われやすく、気温は平年並か高い見込みです。
- 9～10月は、平年と同程度の天候が予想されます。
- これらの予報には、対流圏の全体的な気温が高い傾向となること、フィリピン付近の対流活動が夏に活発であること、秋にエルニーニョ現象が発生する可能性が大きいことが考慮されています。

また、1～2週間先の気温や雪の量がいつもの年に比べて違いが大きいと予想されるときは、「異常天候早期警戒情報」を発表して、農作物や体調の管理、屋根の雪下ろしなどに注意を呼びかけます。例えば、気温がいつもよりかなり高い場合は「高温に関する異常天候早期警戒情報」、かなり低い場合は「低温に関する異常天候早期警戒情報」、雪の量がいつもよりかなり多い場合は「大雪に関する異常天候早期警戒情報」という情報を発表します。これらの情報は週間天気予報より先の1週間が対象で、暑さや寒さなどに対して早めの準備ができます。例えば、稲作においては、水田の水の量を増やすことで低温や高温による被害を防いだり、田植え時期を調整できます。果物栽培においては、霜対策に利用できます。また、電力の需給計画や冷房機器や暖房機器などの販売計画などへ利用できます。その他、家畜の暑さ対策などにも効果が期待できます。一方、大雪に関する異常天候早期警戒情報は、道路の除雪などの事前準備(除雪車の準備やスケジュール調整など)、屋根の雪下ろし、農業施設(ビニールハウスなど)の補強や果樹の枝折れ防止などの事前対策、除雪中の事故への注意を促す事前のキャンペーンの実施などへ利用できます。

気象庁のホームページでもっと詳しく説明してありますので、是非ご覧ください。

気象庁ホームページ「季節予報って何?」:

[http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kisetsu\\_riyou/index.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kisetsu_riyou/index.html)

へた やすとみ(大阪管区気象台)